

秋彩る津島の「まつり」

津島市の秋を彩る「尾張津島秋まつり」は5、6の両日開かれ、2日間で4万人の人数があった。祭りには、高校生らも参加するなど若者の担い手づくりを進める動きもあつた。

5日午後1時ごろ、市内各地から子ども獅子が練り歩き、かけ声をかけながら津島神社に集まってきた。市内の山車なども

各地の神社周辺で巡行するなどの。

6日は、山車や石採祭車など18台のうち、14台が名鉄津島駅前に集まり、からくり人形の演技や鉦と太鼓の演奏などを披露した。津島神社に奉納した後、夜には、天王通り付近で一斉総車切が練り広げられ、ちょうちんに照らされた

11台の山車が勇壮に舞った。今回は、津島山車保存会が清林館高校の生徒に参加を要請し、生徒4人が山車の練り歩きを手伝った。2日間、参加した3年の中村明樹さんは、山車を回転させる車切などの技も体験。「大変だったけど、2日間ずっと参加できて楽しかった」と汗をぬぐった。

同保存会の荻野悦司副会長は「祭りを将来に残すためにも、来年は若い人の参加者を増やしていきたい」と話した。(吉田幸雄)



ちょうちんを揺らしながら、回転する車切を披露する山車。いずれも津島市内で

将来担う若者たち活躍



清林館高から参加した中村さん(左から2人目)ら



石採祭車で太鼓と鉦の演奏を披露する若者ら